

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 オクルーザルメタルにおける、私の“デュプリケートテクニク”

演者名 渡辺裕士

日 付 2007年7月24日

keywords

1. 義歯治療
2. 顎位の長期安定
3. オクルーザルメタル
4. コアー法

抄 録

今日の歯科治療において、インプラント治療の進歩はめざましく、予知性の高い治療への貢献ははかりしれません。

しかしながら、臨床の欠損補綴において、様々な理由から“義歯”を選択せざるをえない症例は数多く、精度の高い義歯製作への努力を怠ることはできません。その義歯治療において、顎位の長期的安定をはかるための有効な手段の一つとして“オクルーザルメタル”があげられますが、その製作法について詳しい指標となるべき文献等はあまり見あたりません。

オクルーザルメタルの理想としては、「一定期間口腔内で使用した機能的人工歯咬合面形態を、ワックスアップに生かす」ことが肝要とされ、そのために“コアー法”を用いることが通念となっていますが、その実用的な精度には限界があるといわざるをえません。

そこで今回、従来の“コアー法”に改善を加えた“デュプリケートテクニク”を紹介させて頂き、先生方のご意見を賜りたいと思います。